

①資本主義にとっての外国市場の必要性 その1

資本主義国にとっての外国市場の必要性は、けっして社会的生産物（および特殊的には剰余価値）の実現の法則によって規定されるのではなくて、第一に、資本主義は商品**流通**が広範に発展して国家の境界外に出ていく結果はじめて現れる、ということによって規定される。だから、外国貿易のない資本主義的国民を考えることはできないし、またそのような国民は存在もしない。

読者もおわかりのように、この原因は歴史的性質のものである。この原因を「資本家にとっては剰余価値を消費することは不可能だ」という数言の古い空文句によっていいのがれることは、ナロードニキでもできないであろう。そのばあい、もし彼らが実際に外国市場の問題を提起したいとのぞむなら、外国貿易の発展の歴史、商品流通の発展の歴史を研究しなければならないであろう。ところで、この歴史を研究すれば、資本主義を常道からの偶然の逸脱としてえがくことは、もちろん、できないであろう。

第二に、社会的生産の個々の部分間の照応（価値の点での、また現物形態の点での）は、社会的資本の再生産の理論によって必然的に仮定されたものであり、そして実際には一連のたえまない動揺のうちにつくられる平均的な大い（「い→き」か？青山）さとしてのみさだめられるのであるが、——この照応は、資本主義社会では、未知の市場のために働いている個々の生産者たちの孤立性によって、たえずやぶられている。相互に「市場」として役だつ種々の産業部門は、均等に発展するものではなく、相互においこしあっている。そして、より発展した産業は外国市場をもとめるのである。このことは、ナロードニキが考えぶかげにそう結論づけようとしているようには、「資本主義的国民にとっては剰余価値を実現することは不可能だ」ということを、すこしも意味しない。これは、個々の生産部門の発展における不均衡をしめすものにすぎない。国民的資本がこれとは別の配分をされていれば、同一量の生産物も国の内部で実現されうるであろう。しかし、資本がある産業部門をすてて他の産業部門へうつるためには、この部門における恐慌が必然である。だが、いったいどのような原因が、このような恐慌に脅かされている資本家たちをして、外国市場をもとめないように、輸出助成のための補助金や奨励金をもとめないように、ひきとめておくことができようか？

第三に、前資本主義的生産様式の法則は、従来規模での、従来土台のうえでの生産過程の反復である。地主の賦役経済、農民の現物経済、工業者の手工業生産は、そういうものであった。それとは逆に、資本主義的生産の法則は、生産方法の不断の改変と、生産規模の無限の拡大である。古い生産様式のもとでは、経済単位は、その性格の点でも規模の点でも変化することなく、地主の世襲領地、農民の村落、あるいは農村の手工業者や小工業者（いわゆるクスターリ）のための附近の小さな市場という限界からはみでることなしに、幾世紀も存続することができた。それとは逆に、資本主義的企業は、不可避免的に、共同体や地方市場や州の境界をこえ、さらにまた国家の境界をもこえて成長していく。そして、国家の孤立性と封鎖性はすでに商品流通によって破壊されているため、資本主義的な各生産部門の自然的志向は、それら各部門を「外国市場をもとめる」必要へとみちびくのである。

だから、外国市場をもとめる必要は、ナロードニキ経済学者たちがこのんでえがいているように、けっして資本主義の破産を証明するものではない。まったく逆である。この必要は、資本主義の進歩的な歴史的な作用を明瞭にしめしている。資本主義は、経済制度の古い孤立性と封鎖性を（したがってまた精神生活および政治生活の狭さをも）破壊して、世界のすべての国を単一の経済的全一体へと結合するのである。

第三巻 ロシアにおける資本主義の発展

第一章 ナロードニキ経済学者の理論的誤り P43~45

②資本主義にとっての外国市場の必要性 その2

第一章で、資本主義のための外国市場の問題を生産物の実現の問題とむすびつける理論の誤りを指摘しておいた（42~43 ページ以下）。資本主義にとって外国市場が必要であるのは、けっして、国内市場で生産物を実現することが不可能だからではなくて、資本主義は同じ生産過程を従来どおりの規模で、不変の条件のもとで（前資本主義的制度のもとでそうであったようには）反復することができず、それは、従来を経済単位の古い、狭い限界を乗り越えて成長する、生産の無制限の増大に不可避免的にみちびく、という事情のせいである。資本主義に固有な発展の不均等性のもとでは、ある生産部門は他の生産部門を追いこし、経済関係の古い地区の限界外に出ようとつとめる。……………工場主にはますますにも市場が必要なのである。そして、国民経済の他の方面の立遅れが古い地区における市場をせばめているならば、彼らは市場を他の地区に、または他の国に、または古い国の植民地に、もとめるであろう。 第三巻 第八章国内市場の形成 P626~627

〈要約〉

外国市場がなければ剰余価値が実現できないというのは誤りである。

- ① 外国貿易は商品流通が広範に発展して国家の境界外に出ていく結果はじめて現れる。つまり、商品流通が広範になれば外国貿易も必然的に盛んになる。
- ② 不均等に発展する個々の生産部門のより発展した産業が外国市場を求める。国民的資本がこれとは別の配分がされていれば、同一量の生産物も国の内部で実現される。
- ③ 資本の外国市場をもとめる必要は、資本主義の進歩的な歴史的な作用を明瞭にしめしている。資本主義は、経済制度の古い孤立性と封鎖性を破壊して、世界のすべての国を単一の経済的全一体へと結合するのである。